

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」

会報 かいほう ノーフェンス

ひとりの人間として、人類の歴史に禍根を残さないために、山の奥に封じ込められ、いのちの尊厳を冒瀆されている人々を放置しない。



(NO FENCE IN NORTH KOREA)

NO FENCE

-mail: nf-staff@netlive.ne.jp

NO FENCE

vol. 20

2013年 1月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203 TEL&FAX 03-3262-7473 <http://nofence.netlive.ne.jp> 【郵便振替口座】 NO FENCE / 00180-1-707147

「節」

NO FENCE代表 砂川昌順

新年を迎え、一つ年を重ねた。節目が一つ増えた。節は成長の基点ともなる。竹の節はまさにそうなのだが、その節の数は竹の成長とともに増え続けるわけではない。節の数はタケノコの時から同じである。限られた節と節の間隔が伸び、節によって真っ直ぐに上に向かって強く伸びていくのである。

「竹は節ありて風雪に強し」と言われる。節によって折れにくくなり、しなやかさを生む。その強さの秘密は、まさに節にある。節の多い竹ほど弾力を増し強靱である。節には成長要因があるのみならず、植物の副次的効用として病原菌の侵入を阻止する力もある。

竹はなぜパイプ状に丸いのか。なぜ空洞なのか。竹林はいかに形成されるのか。力学的にも生き方を模索する上でも、そこから学べることは多い。日本人は昔から、節の効能を日常生活においても自然と応用してきた。団扇や茶せんは、節を活かした芸術品である。尺八の音色は節によって甲高く響き、弓道で使われる竹弓は節があることでしなりに堪え座屈しにくい。

2013年が、その「節」となるのか。新政権の発足で、その気配が生まれ期待する向きは多い。節としての効能や効用が、政治や経済が抱える国内問題のみならず、外交においても表出することが期待されている。

「節」を創出できるかどうかは、政権政党にのみ問われるわけではない。期待を実現に結び付けられるかは、国民一人ひとりの言動にかかっている。

北朝鮮は2013年も、日本のみならず国際社会に対しても、さまざまなカードを切ってくるであろう。その中であって、日本外交の前線に求められる基本姿勢は、晏子高節（あんしのこうせつ）である。中国の春秋時代に臣下として節義をまっとうした晏嬰という人物に由来するこの四字熟語には「節」という文字が含まれているが、いかなる誘惑や脅しにも惑わされず屈せず、人権人道における守るべき人としての節義を貫き通す決然とした態度を示すことである。

人権を御旗に掲げ、強制収容所の廃絶を訴えるNO FENCEの活動においても同じことが言える。強制収容所廃絶に向けたロードマップを描く上での「節」を創出していかなければならない。節は無限には存在するわけではない。限られた節を活かせるかが、廃絶に向けた最短ロードマップを描けるかどうかの分岐点ともなる。

晏子高節を貫き通せば、2013年が「節」だったと回顧できる日が訪れるのは、そう遠くないはずである。

会寧 22 号『閉鎖』の真相に迫る 元警備兵 安明哲氏に聞く

12月15日 於：人権ライブラリー

報告 宋允復

小川晴久先生の出版記念講演の第一部として、2008年12月の当会主催国際会議以来4年ぶりに安明哲氏を日本に招き、2012年に浮上した会寧22号管理所『閉鎖』について見解を聞いた。

安氏によれば、保衛部所轄の管理所は安氏が警備隊に入隊した87年当時11か所存在したが、6つが閉鎖され、現在は5か所。

まず、グーグルアースを用いて特定した各収容所の構造、施設等を衛星写真を投影しながら概説。

14号(价川)：申東赫氏の逃亡によって詳細が明らかになった。

18号(北倉)：社会安全省所轄。複数脱出者が出たことで閉鎖(2005年ごろ?)。

15号(耀徳)：2、3年前に革命化区域がなくなり、全体が完全統制区域になった。

16号(化城)：まだ脱出した人がおらず情報が洩れていない。(宋註：「いる」との情報あり)

22号(会寧)：中国との国境に近い。平時には農業用の水源としているダムが三か所あるが、有事の際はこれを爆破・決壊させて囚人の村を水没させて殺すことになっている。このダムを爆破することも警備隊の任務の一つ。

石炭を積みだす鉄道の引き込み線にある検査哨所(詰所)では 貨車を回転する大型の串で突く。逃亡者が隠れていても生きて逃げられないように。

25号(清津輸城)：政治犯本人が入る。刑務所の形態。革命化区域もある。二年服役して出所し脱北・韓国入りした者あり。間近にダムがあり、ここでは水門を開いて水攻めにする。清津の市街地が近いので水量を調節するようになっている。

次に22号管理所の『閉鎖』に関して。当会会報にて幾度かお伝えしたが、2012年の2月ごろから噂が漏れ始め、5月には収容者の移送、8月には一部施設の解体、外部からの人の移入等の情報が複数のルートでキャッチされ、ラジオ・フリー・アジア等が報じた。

これを受けて米国のHRNKは、デジタルグローブ社の協力のもと、2012年10月に撮影した22号管理所の衛星写真と2010年、2011年撮影のそれとを比較解析したところ、報じられているように一部施設が解体されなくなっているのは確認できたが、いまだ農作物の収穫、石炭の採掘・搬出が活発に行われている様子が窺われるところから、22号閉鎖の情報は北朝鮮側の偽装工作として意図的にリークされている可能性があるとするレポートを公表した。(10月24日付)

[http://hrnk.org/uploads/pdfs/HRNK%20CAMP%2022%20REPORT%20FINAL%20\(1\).pdf](http://hrnk.org/uploads/pdfs/HRNK%20CAMP%2022%20REPORT%20FINAL%20(1).pdf)

これを踏まえ、安氏は、過去三年間に渡る22号管理所の衛星写真の変化を示しつつ、過去

他の収容所閉鎖の現場業務に携わった経験に照らして自身の見解を披露した。

衛星写真の解析によって、2011年までは存在が確認できる22号管理所内の複数の拘留施設が2012年10月の段階では解体されていることが分かった。

ここで安氏は、この22号に山一つ隔てて隣接した鐘城13号管理所の閉鎖に立ち会った経験を披露する。

13号の閉鎖は89年に行われた。まず収容者を列車に乗せて他の収容所に分散・移送した後、警備隊が拘留場や拷問場などの重要施設を爆破・解体。その後、保衛員が施設の社会への引き継ぎを行ったという。この13号の機密施設の爆破・解体作業が終了して撤収する際、安明哲氏自身が警備隊員をトラックに乗せ22号に移送したという。

この経験と照らし合わせて、安明哲氏は22号管理所は閉鎖されたと見る。

さらに安氏は、この見解を補強する情報を22号管理所近傍ルートから入手したという。

それによると、

○ 2010年からこの収容所を飢饉が襲った。もともとここは5万人収容であったが、2年ほどで3万人が亡くなった。

※この急減には伝染病も作用したと安氏は推測する。91年1月ごろにもこの22号内の一部で俗称「ネズミ病」が伝染した。正式な病名は失念。背中に縦縞のある野鼠が媒介するもので、収容者はこの野鼠の危険性を知っているため縦縞のある鼠そのものは食べないのだが、この野鼠が集めたトウモロコシを探し当て食べた者が罹り伝染したため、一月ほどの間に200人以上が死んだことがある、と安氏は記憶する。

○ 残る2万人の収容者は15号と16号に分散収容された。

○ 収容所の農場地域には、周辺の恩徳郡とセッピール郡の協同農場の農場員が移住し農業をしている。

○ 22号管理所本部には朝鮮人民軍9軍団の兵力が駐屯しようとしている。

安氏が推測する閉鎖の理由の第一は秘密が漏れたこと。安氏は2000年にデジタルグローブ社と協力し、衛星写真を用いて22号管理所の詳細を暴露している。

北朝鮮は収容所の秘密保持を至上課題としており、以前は中国との国境近くに収容所を設置していたが、中国が資本主義化してきたので、国境近くの収容所を閉鎖し、内陸部に移してきたという経緯がある。

第二には、この収容所の主要産品の一つは石炭であるが、安氏はこの石炭が枯渇したと推測する。

13号管理所も同じ鉱脈でつながっていたが、この13号の解体は、・国境に近い・石炭の枯渇が理由であったという。

※米HRNKは追加のレポートを12月11日付で公表。11月26日に撮影された衛星写真とも照らし合わせて、収容所外郭の警備詰所、監視塔等の一部が解体・撤去されていること

を確認した。しかし、農作業、石炭積み出しが引き続き行われていることから閉鎖説は「確信できない」と留保を付している。

<http://hrnk.org/uploads/pdfs/HRNK%20CAMP%2022%20REPORT%20UPDATE%20DECEMBER%2011-2012.pdf>

質疑応答

Q: 公開処刑について

A: 収容所内の公開処刑は一応法、ルール、規定に基づいて年に数回行われる。見せしめの効果を狙ったもの。ただ、それ以外の秘密処刑がある。これは保衛員の不正を知った収容者を口封じのために殺す、保衛員が囚人の女性を妊娠させた場合、もみ消しのために殺すが、これは「静かに殺す」とか「課外処刑」と言われ、収容所の統計には表れない。

Q: 18号出身の金ヘスクさんは、19号、21号、23号の管理者が18号の川原で処刑されたと証言している。他にも収容所が存在しているのではないか。

A: 19号は社会安全省管轄。21号、23号については知らない。

※宋註: 90年代に『深化組』事件に関わったある脱北者は、「18号に人を入れすぎたので、97年末の冬に咸鏡南道大興の17号に大挙移住させた」と語っている。19号は咸鏡南道端川大興所在とされているので、号数は記憶違いとも思われるが、いずれにしても他の収容所の存在については引き続きリサーチしたい。

Q: あなたが脱出せず、そのまま収容所の警備隊員として勤務を続けていたらその後どうなっていたのか。

A: 管理所の警備隊は、選抜の時から一般の軍とは異なる。選抜される者の多くは管理所保衛員の子弟。国家安全保衛部と社会安全省の重要な職責にいる者の子弟。党幹部の子弟。党性の強い者を選び、選抜後の教育においても一般の部隊に比べ思想教育の時間が週四時間さらに多い。思想教育の中身は、第一に金日成への忠誠心。第二に管理所の秘密保持。第三は政治犯に対する敵愾心の涵養。管理所の秘密を漏えいしたら、その本人が今度は囚人として管理所に入ることになるかと叩きこまれた。

警備隊に八年から九年ほど勤務して除隊すると、およそ八割の者は金日成政治大学という幹部教育機関に進み、卒業したら再び管理所の保衛員として赴任する。

大学に進まなかった約二割は、平壤にある国家安全保衛部本庁に勤務し、住居も平壤に割り当てられる。つまり、ひとまず警備隊員として管理所に足を踏み入れたら、一般の社会生活は許されない。秘密保持のため。結果として北朝鮮の住民の中で収容所について知らない人は多い。

Q: どのような者が収容所の所長になるのか。

A: 管理所の所長に任命されるのは軍の階級としては少将で星一つ。国家安全保衛部本庁の第七局で勤務経験のある者、管理所内で出世した者、あるいは金正日の側近の中から選抜された者が来る。管理所所長として任命されて赴任してくると通常 75 歳まで勤める。管理所勤務で任期を終えた者、除隊した者は管理所近くに別途作られた除隊保衛員の村で暮らすことになる。彼らの食糧、日用品等は管理所から供給される。

※ 師走、北朝鮮関連の他のイベントも重なる中、当集会にご参集いただき、熱心な質疑を展開していただいた各位に御礼申し上げます。また、志をお寄せいただいた梅原克彦、佐藤悟志、白井千秋、山田文明の各位に謝意を表します。

宋允復 拝

北朝鮮

南朝鮮の新大統領は北朝鮮問題に挑戦しなければならない

ニューヨークタイムズ (2012, 12, 19) 記事

昨日南朝鮮 (韓国) 最初の女性大統領に選ばれた朴槿恵 (パク・クネ) 氏は、また中国、日本、南北朝鮮、台湾、シンガポール、ヴェトナムから構成される、世界人口の四分の一近くを占める儒教文明圏で最初に選ばれた女性指導者である。

しかし彼女が歴史に刻む印は、彼女が女性であることによって決まるのではなく、また彼女が選挙演説 (キャンペーン) した国内政治によって決まるのでもない。それは今日の世界で最も組織的に抑圧されている北朝鮮の同胞たちの途轍もない被害を和らげながら、彼女が朝鮮民族に対する最大級の道徳的挑戦に成功裏に取り掛かることが出来るか否かにかかっている。

確かに、数千年も続いた男性優越主義が浸透した文化の中で、男らしさの砦にひびを入れることは、歴史的なことである。政権党である中道右派のセヌリ党の候補として勝利したことだけで、朴氏は直ちに東アジアの何億の女性の模範となった。

事実、彼女の立候補そのものが、多くの学歴のある南朝鮮人が楽しげに受け入れている男性優越主義の深さを明らかにした。例えば、10月ある指導的な大学の男性心理学学者は「朴氏は結婚していないし、子どもを産んでいない」と指摘し、そしてあるTV番組で次のようにコメントした、「南朝鮮社会での女性は結婚し、出産し、子供を育てることで女性らしさを得る。朴槿恵氏はこれらの条件を欠いている。ただ彼女の生殖器官だけが彼女を女性としているだけだ」と。

そのような雰囲気の中で戦いながらも、彼女は一つの利益を持っていた。南朝鮮人の彼女の父朴正熙 (パク・チョンヒ) の経済的達成に対する尊敬である。彼は1960年代と70年代に現代社会の最大の経済的転換を独裁主義者の手法で行った。彼の舵取りで南朝鮮は惨めな貧困と飢餓を根絶し、グローバルな貿易で工業社会の指導者になる基礎工事を行った。

選挙演説（キャンペーン）の中で彼女は経済の更なる発展を約束した。仕事を創出し、経済を再構築することで、また大学授業料の値下げ、子供手当と他の社会福祉事業の拡大によって、中間層を再建すると誓った。

勿論経済の健全と社会福祉を伴うことは、いかなる国家の指導者であっても不可欠な仕事である。しかし彼らは豊かな南朝鮮が当面している最大の国家的挑戦を選び取ることができない。そして朴氏は父親の専制政治（独裁政治）にも拘らず、なぜ今日賞賛されているかをよく思い出すことができる。彼はそれ以前それ以後の他の南朝鮮の指導者と同じく、彼の時代の最も強力な国家事業を決定でき、それを実現した。

最初のそのような指導者は金九（キムグ）であった。彼は20世紀の前半日本による朝鮮半島の占領中とそのあと、独立のための戦いの中で指導的な朝鮮人として誰よりも尊敬されている。

その後、朴氏の父が執権中の約20年間での、南朝鮮の朝鮮戦争の跡を追っての再建と経済的発展は、韓国の最も驚嘆すべき国家的挑戦として残った。

そして1980年代と90年代の中心的工作は、民主主義の種を育てることであった。この仕事で金大中（キム・テジュン）元大統領（ポピュラーな政府と人権のチャンピオン）は、現金数億ドルを含む無条件の援助を北朝鮮に与えた疑問のある政策にも拘らず、今だに賞賛されている。

今日、一つの朝鮮国家（民族）建設への最も偉大な呼び掛けは、北朝鮮の人々を解放しつつある。60年以上の間、北朝鮮の人々は強制収容所の巨大なネットワークの影で衰えてきた。彼らの生活（生命、生）は言論、思想、宗教、集会、移動の自由という最も基礎的な自由を奪われてきた。

北朝鮮は現代世界の識字率の高い、工業化され、都市化された経済が、平和時の飢餓を経験している唯一の国である。1990年代の中頃から後半にかけて人口の約一割が飢えるという人為的な災害である。

それ故北朝鮮内の生活条件の改善の必要は、今日独立（自立）した豊かな自由南朝鮮の緊急な要求である。憲法で全朝鮮民族を代表する唯一の合法政府であると南朝鮮は主張しているにも拘らず、朴氏の前任者は誰一人その要求には応えていない。

朴権恵氏はその仕事を引き受けた。彼女の選挙演説（キャンペーン）の中で次のように述べて、「統一した朝鮮の主要な参加者（アクター）である北朝鮮の人々の受難を無視して進むことはできない。」と。

彼女は続けてこう言った、「北朝鮮の人々の強制送還を阻止するであろう」、「北朝鮮脱北者たちの定着支援計画と仕立てられた支援システムを強化するであろう、彼らの一人ひとりが彼らの能力を潜在力一杯まで高めることができるように」と。

朴氏の挑戦は、彼女が2月に就任するときから、そのような誓約を守って行かなければならないだろう。今まで南朝鮮の指導者は誰一人北朝鮮の人権を優先したことはなかった。どの大統領も北朝鮮に政治犯のための強制収容所の除去を求めたことはなかった。また、平壤の指導者を刺激することを恐れて北朝鮮の脱北者と公式に会ったことはなかった。

しかし今日、60年前と同じように、北朝鮮に強制収容所を解体し（tear down）、北朝鮮の人々に外部世界の情報を提供するよう要求する議論は驚くべきことである。結局、一つの民族（国家）が半分が奴隷、半分が自由民であることはできない。そういう状態の危険は、毎年二つの朝鮮の間の政治的経済的対照が増大するたびに増大する。

朴氏は北朝鮮の人権侵害についての国際的、国内的認知度を高める努力をしなければならない。例えば、彼女は北朝鮮へのラジオ放送と他の情報伝達のための資金を増大させねばならない。この主題での出版や国際集会の支援、そして北朝鮮人の南朝鮮国内での定着を支援する計画を大きく広げていかなければならない。

そのような努力は近い将来目に見えた効果は生じないかもしれない。むしろそれらの努力は両国関係に行き詰まりと緊張の期間をもたらすであろう。しかしサミットでのショウ（見世物）や外交取引で衰退があっても、これらの手段は真に問題になっている事柄を達成するであろうし、北朝鮮の人々が外部世界についてより多く学ぶのを助けるだろうし、たとえすこしずつであっても、彼らの指導者からより多く要求するのを助けるであろう。

生きる権利のような基礎的な権利の保護での最も穏（おだ）やかな前進ですら、そして隷属からの自由または表現と集会の自由は、北朝鮮の人々の生活をより良いものに変えるであろう。

そしてそのような変化が同胞の朝鮮人たちを何百万とはいかなくとも、何十万人、束縛から解放することを助けたとして、彼らは過去二千年を超えて、指導者の誰も主張しえなかった遺産を朴氏（彼女）に与えるであろう（小川 晴久訳）。

[コメント]この記事はベルギーの「国境なき人権」(W. フォートレさん主宰)のニューズレターで知り、読むことができた。一読して感銘を受けた。日本語に訳してみたことが二・三あった。それを記してコメントに代えよう。

先ず第一に東アジアの儒教文化圏での歴史始まって以来の女性誕生を高く評価していることである。フィリピンでは女性のアキノ大統領がすでに誕生しているが、男尊女卑の儒教文化圏では確かにその通りである。

また北朝鮮の人権状況を憂える保守の候補者らしく、また人の命と人権に敏感な女性候補者らしく、選挙演説の中でそれへの取り組みを約束したことを高く評価し、北の人々の命を救い、その人々の才能を発揮してもらおうとする彼女の見識を高く評価していることが、注目に値する。この点は彼女に対する期待であり、強い要望であるように感じた。現に12月20日～21日の日本の五大紙の報道をチェックしてみると、ニューヨークタイムズ紙のこの記事のような視点は、どの新聞にもかけら程もなかった。流石人権意識の高い欧米の新聞である。

しかしほめてばかりはいられない。「60年以上の間、北朝鮮の人々は強制収容所の巨大なネットワークの影で衰えてきた」というのは不正確である。このような強制収容所が出来たのは1967年5月以降北朝鮮が全体主義国家に移行して以後であり、「60年」は「40数年」と是正すべきである（小生が最近出した拙書第四章を参照されたい）。全体主義と強制収容所の視点（ハンナ・アレント）が不可欠である。

もう一つこの記事で留意すべきは、韓国の憲法で韓国（政府）を朝鮮半島を代表する唯一合法政府と規定していることを容認している点である。1965年に日韓基本条約が両国内や北朝鮮の強い反対にも拘らず強行採決で締結され、韓国と日本は国交を結ぶが、当時その条約に反対した理由の一つがこの規定にあった。北朝鮮の存在が全く否定されていたからである。当時私はこの規定に強く反対する立場に立っていた。今でもこの立場を棄てたわけではない。地球の生態系を守り、人権を重んじる社会主義の立場はありうると考えるからである（小川 晴久）。

22号トウモロコシ

宋允復

2013年1月8日、清津に駐屯する部隊に勤務し2010年に韓国入りした脱北者からの聞き取り。

保衛部でやらせるから、他の地域の農民たちもよりもっと一生懸命やることになるんだな。22号収容所の苦役で明け方から夜の十時まで畑なら畑で人糞の肥料撒かせてずっと働かせるからね。だから土が良いんだ。

そこで生産されるトウモロコシ、それが清津市でたくさん売られたが、清津市内でも「22号カンネンイ(トウモロコシ)」と言えば値段が高かったよ。

Q 実際に22号トウモロコシと呼んだのか？

そう。

Q 人々は収容所で生産されたものと承知していたのか。

みんな知っていたよ。

Q いつごろから知っていたのか。

正確にいつというのは思い出せないが、2000年代からだね。私が良く知っている、軍部隊の外貨稼ぎ部門に籍を置いているお婆さんの一人が会寧政治犯収容所の保衛部幹部とつながっていて、会寧政治犯収容所で生産されるトウモロコシと豚肉を引き受けて売っていたんだ。

豚肉も何度も食べたけど実によくうまかった。穀物だけを飼料で与えて80キロから100キロまで育てたのがたくさんいた。一度に豚肉が5トンとか10トン出てくるんだから。政治犯収容所の所長やわずかな数の幹部がそれを売って不正蓄財をするわけだ。それを売って、収容所で必要な資材を購入するという口実で。

22号収容所に一人アクセスできていた人がそのお婆さんだった。名前は〇〇〇といったな。2004、5年ごろからその仕事を始めたと思う。幹部たちはずっと以前からやっていたろうから、ずいぶん金を稼いだろうね。

化城の16号管理所も同じように幹部たちが個人で着服していた。六軍団司令部があった羅南区域には軍部隊外貨稼ぎ倉庫がたくさんあった。いまは九軍団だが。

16号トウモロコシより22号トウモロコシの方がよく実っていて質が良かった。同じ収容所でも、16号のものは22号ほどには質が良くない。

だから22号トウモロコシが1キロ2000ウォンしたとすると、16号トウモロコシは1キロ当たり1300ウォンか1400ウォンほどにしかならなかった。

清津市では22号トウモロコシといえば商売人たちは余計なことは言わずに買っていったよ。

16号管理所の幹部がうちの部隊を訪ねてくる。彼らは保衛部所属なのだが、安全員(警察)

の服を着ている。所属を隠すために。資材担当の課長がよく来ていた。16号で生産されるヤギやヒツジを横流ししようと。それを売っては自分たちのポケットに入れるわけだ。会寧22号の連中も〇〇〇おばさんの家でよく見たし。

16号には人民軍総参謀長の金昌奉(キム・チャンボン)も一時いたという話を聞いた覚えはあるが良くは知らない。訊ねもしないよ。変に思われるから。聞かなくてもおおよそ知っているし。

遅ればせながらねぎらいと感謝を 天国の小川真理子さんに捧げます

宋允復

小川晴久先生の奥さま 真理子さんには90年代から2000年代後半まで集会でお目にかかり、二次会までご一緒する機会も度々いただいた。優しくも端正なたたずまいで、時に激昂する会の議論のやり取りを少し心配そうに見つめておられたことを覚えている。小柄ながらご本人が自動車を駆って長距離を往来されるダイナミックさに意外な印象も受けた。その折々、なぜだか私に大福や赤飯、おこわを手渡されたことが幾度かあった。瘦せぎす故「まともに食べていないのではないか」とご心配をいただいたのかも知れない。

先日のお通夜で谷川透さんの話を聞くうちに次第に記憶が蘇ってきた。

大学の教授職と会の活動を両立するために無理を重ねる小川先生を見かねて、会の役員に小川先生が一線から引けるよう対応してほしいと相談されていたこと、遂には真理子さん自身が勤務先を早期退職され小川先生を支えられたこと…

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

そんな真理子さんが乳がんを患われ手術されるとお聞きしたとき、私の胸中をよぎったのは父のことであった。私が小学六年生の年に肺がんが転移し48歳で亡くなった父、その末期に色とりどりのカプセルを掌いっぱい載せ「ははは、薬漬けだよ」と力なくつぶやく姿が脳裏に浮かんだ。

父を亡くして以来、近年では慶応大学の近藤誠医師の著作はじめその方面の書を折々手にし、患者には抗がん剤を大量に処方していた専門医が、いざ自分が癌になると手術、抗がん剤を拒否し食事療法に専念したという類も含めて、日本の医療界の体質、そこで表向き当然とされる手術、抗がん剤、放射線を併用する癌の標準治療なるものに警戒感、より率直に言うなら否定的見解を抱いている私は、「他の選択はないのか、セコンドオピニオン、サードオピニオンは徴されたのだろうか」と思いつつ、差し出がましいのではないか、失礼になってはいけなさと、口をつぐんだ。

術後しばらくして脳や肝臓ほかへの転移でご容体が良くないと伺い、後悔に襲われた。素人なりに大麻オイルやメガビタミンC療法を想起したのだが、前者は日本では入手が叶わず、せめて若干の効能なりを期待して麻の実オイルをお送りしたが遅きに失した。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

しかし、こうした思いは地に残る者の執われに過ぎないかも知れない。この世に永遠に留まる者はいない。いずれ誰もがこの世を去る。誠実に人生を歩まれたであろう真理子さんはいま安らかさの中に憩っておられるに違いない。来世の存在を知る者の一人として、そう信じます。

小川晴久先生のお仕事とそれを支えられた真理子さんのご労苦は、様々な縁のもとで、いま国際的にも大きなうねりとなって結実しようとしています。その舞台裏の一端を知る者として、僭越ながらねぎらいと感謝を申し上げます。ありがとうございます。引き続き天からお見守りください。

金正日の驚愕の『本音』日本を人の住めない地にしてやる

ヨドック体験者講演会 2月9日(土) 午後1時半から4時半

会場：人権ライブラリー（浜松町）地図参照

講師：李英秀（ヨドック収容所体験者）

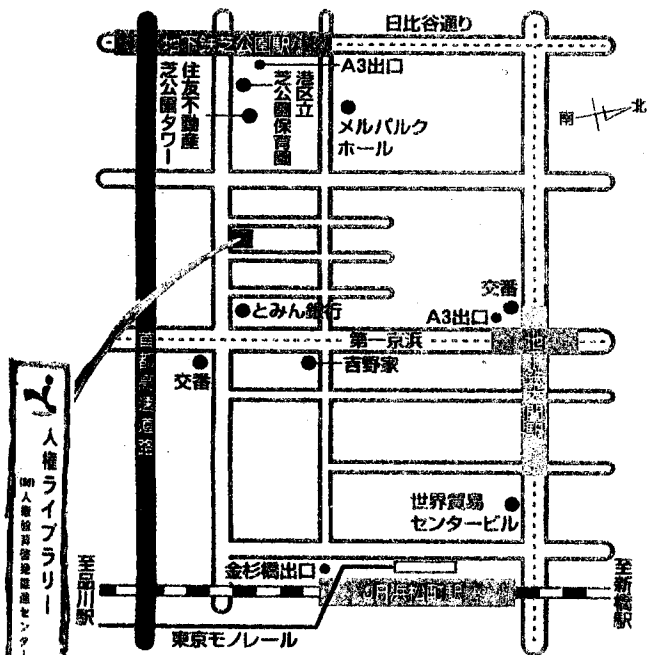
証言者の李英秀（イ・ヨンス）氏は、韓国軍捕虜の息子として北朝鮮に生まれる。服役後、炭鉱に配置された職務を拒否したため「反動」の烙印をおされて15号ヨドック収容所に送られた。しかし収容所内で配置されたアヒル飼育舎での卵のふ化作業に際し、前任者の数倍の実績を上げたために所長の信頼を得た。

所長の意向の下、革命化区域を管轄している^{に囚われている}いずれ平壤に戻る幹部クラスの役人（その中には金日成の一族に連なる者もいた）にふるまう肉を用意する務めを果たすようになった氏は、外の社会では容易に知り得ないような、平壤の政治的な権力関係についての機密情報に触れるようになる。

本集会に先がけて昨年12月には救う会の招きで来日しており、氏が知り得る日本人拉致に関する情報については既に公に証言されている。

この度のNO FENCE主催の証言集会では、ヨドック収容所内での人道犯罪はもとより、建国当初から金日成が親族に漏らしていた政治観、工作人員らを前に金正日が吐露した日本への本心など、これまで公に語られてこなかった、安全保障にも直結するエピソードの数々を李氏からじっくり伺うことにする。

●所在地のご案内●



【最寄駅】

- JR線浜松町駅（南口改札から金杉橋出口徒歩7～8分）
- 地下鉄都営三田線芝公園駅（A3出口徒歩3～4分）
- 地下鉄都営大江戸線・浅草線大門駅（A3出口徒歩4～5分）

財団法人 人権教育啓発推進センター

人権ライブラリー

〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 4F
TEL 03-5777-1919
FAX 03-5777-1954
e-mail library@jinken.or.jp
ホームページ http://www.jinken.or.jp/
開館時間 9:30～17:30（土日、祝日、年末年始は休館）



編集後記

本会報（2013年新年号）の刊行が遅れているうちに、北朝鮮の人権問題の解決のための国際環境が変わつてきているのは、うれしい事態である。北朝鮮人権問題調査委員会（COI）と国連人権理事会の中に設置する動きが急ピッチで進んでいる。ヒレイ国連人権高等弁務官の発言はそれを促している。「節」目2012年の始まりである。

私事であるが、妻が1月16日に癌で亡くなった。宋さんが文を書いて下さった。この運命と共に亡くなったので掲載を許されたい（2013.1.28 小川日晴久）。